

むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 宮下 宗一郎 殿

隊員氏名 山田 菜生子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2022年11月分】

1. 実施した活動の概要・状況

11月は川内中学校2年生への講義、函館市・鹿部町への研修旅行、むつ下北未来創生キャンパス祭でのブース担当などの活動を行い、たくさんの地域内外の方々と交流の機会に恵まれた。また、新たな発信媒体としてLINE公式アカウントの運営も始めたため、よりイベント情報の発信に力を入れていければと思う。

〈主な活動〉

○11月4日（金）川内中学校課外講義

4日、川内中学校2年生の総合的な学習の時間の一環として、むつ市地域おこし協力隊員の「これまでの人生、そして生き方」についてそれぞれ講義を行った。講義の前半では体験館内を中学生に見学してもらい、3階の展望台など、1度体験館に訪れたことがある利用者也楽しめる場があることを再認識した。現状、地域からの利用者がまだ少ないため、このような課外活動をきっかけとしてより多くの地域の若者、子どもたちに利用してもらえたらと思う。



○11月16日（水）、17日（木）研修旅行

2日間の協力隊研修旅行として、北海道函館市および鹿部町を訪れた。

1日目は函館市協力隊プーン隊員から、貿易分野での協力隊活動について食の視点からお話を伺い、その後カヌーツアーのアクティビティ体験を行った。2日目は鹿部町元地域おこし協力隊の野田さんが営む shikasan カフェで鹿部町現・旧地域おこし協力隊員から、他分野からの町おこしのアプローチについてお話をうがい、その後どさんこファームにて地元場の乗馬体験を行った。

私は今回の研修旅行を通して、「自分の特性を生かした地域おこし活動」ができていないことに気が付いた。1日目にインタビューさせていただいたプーンさんは「海外にルーツや繋がりを持つ」という大きな特性を生かし、地元企業が今まで気づきえなかった物流経路を作り出し、2日目の野田さんは、料理上手という特性から、着任当初のミッションであった「観光」の枠を超え

地元食材を使ったレシピ開発に取り組み、任期を終えた今は鹿部町に定住しカフェを営んでいる。「観光」「自然資源」とは一見関連の無い「多言語」「音楽」「現役大学生」という私の特性も使い方次第では大いに活用できる可能性があることを学んだ。今後の活動においても今回の学びを生かしていきたい。



○11月19日（土）むつ市海と森ふれあい体験館公式LINE開設

体験館でのイベントを利用者によりダイレクトに伝えるべく、従来使用していた発信媒体に加え、19日体験館LINE公式アカウントを開設した。公式アカウントではチャット機能、メッセージ機能を活用し、新規利用者だけでなく、リピーターも獲得していけるよう、定期的な配信を行っていく。

シェルホール
LINE 公式アカウント
はじめました！

体験館のイベント情報を
あなたにお届けします☒

お友達登録、
お待ちしております！

2. 翌月の活動予定

1 2月は下記の活動に加え、引き続きカマイルカの骨格標本作成作業を行う。

12月3日（土）ジオパーク学習発表会

12月17日（土）下北ワインとジャズの夕べ

12月18日（日）若者育成事業 冊子完成発表会